ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
EU41D101	学校実践基礎研究 (Fundamental Study of School Practice)	実習科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択必修	2	1	教育学研究科	前期	他	日本語		複数(共同)

担当教員	氏名　内田昭利，柴田康弘，藤村晃成，長谷部英樹，後藤竜太，髙橋徹弥，廣田秀俊，友成洋 E-mail　a-uchida@oita-u.ac.jp　内線　6135
授業の概要	目的：各教育段階および特別支援学校における教育活動に対する理解を深め，現状の成果と課題を把握する力を養う。 附属四校園(幼・小・中・特別支援)および高等学校における週1日の実地観察・体験を10回、計10日間にわたって行う。実地観察・体験において，各教育段階および特別支援学校における教育活動に対する理解を深め深めるとともに，現状の成果と課題を把握する。また，幼・小・中・高における教育の連続性や各教育段階における特徴をつかむ。さらに特別支援学校においては，「インクルーシブ教育」「共生社会の形成」等の視点を持って実地観察・体験をする。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	幼・小・中・高における教育の連続性や各教育段階における特徴を理解できる		○						
目標2	特別支援学校においては，特に，「インクルーシブ教育」「共生社会の形成」等について理解できる		○						
目標3	自らが担う教育段階において，未来社会を担う人材育成の位置づけとその在り方を認識できる		○						
目標4	「教育実践研究報告書」の課題(自己の研究課題)へとつなげることができる		○						
目標5									
目標6									
目標7									
目標8									
目標9									
目標10									
	各DPへの関連度（計10）		10						

授業の内容	
1	【事前指導】
2	・学校実践基礎研究にむけて課題意識の明確化を図る。
3	【附属幼稚園における実践基礎研究(2日間）】
4	・実習校における実地観察・体験を通じ，幼稚園の現場における教育活動に対する理解を深めるとともに，現状の成果と課題を把握する
5	【附属小学校における実践基礎研究(2日間）】
6	・実習校における実地観察・体験を通じ，小学校の現場における教育活動に対する理解を深めるとともに，現状の成果と課題を把握する。
7	【附属中学校における実践基礎研究(2日間)】
8	・実習校における実地観察・体験を通じ，中学校の現場における教育活動に対する理解を深めるとともに，現状の成果と課題を把握する。
9	【附属特別支援学校における実践基礎研究(2日間)】
10	・実習校における実地観察・体験を通じ，特別支援学校の現場における教育活動に対する理解を深めるとともに，現状の成果と課題を把握する。
11	【公立高等学校における実践基礎研究(2日間)】
12	・実習校における実地観察・体験を通じ，高等学校の現場における教育活動に対する理解を深めるとともに，現状の成果と課題を把握する。
13	【事後指導】
14	・実地観察・体験の省察ならびに学校実践基礎研究の振り返り
15	

アクティブラーニング			その他の工夫	
	A:知識の定着・確認		実習	LMS（Moodle）の活用
	B:意見の表現・交換	○		
	C:応用志向	○		
	D:知識の活用・創造	○		

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	実習計画，実習準備（30ｈ）
	事後学修	実習日誌（15ｈ）
	想定時間合計	45

教科書	必要な資料等は大学より配付する。
参考書	必要な資料等は大学より配付する。

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実習校における実地観察・体験への積極的参加度	50%	○	○	○	○						
	実習日誌の作成および内容	50%	○	○	○	○						

注意事項	
備考	
リンク	URL
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	内田（小中盲）/ 柴田（中，教育委員会） / 長谷部（小，教育委員会）/ 後藤（小，教育委員会）/ 髙橋（特支・教育委員会）/ 廣田(小) / 友成（特支）
実務経験をいかした教育内容	学校現場，教育行政現場での実務経験及び領域専門性を活かして実習前・実習中・実習後の包括的かつ具体的な指導，省察を行う。